

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 武蔵野女子学院中学高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫 中高併設型)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒202-8585
東京都西東京市新町 1-1-20

E-mail a_enomo@musashino-u.ac.jp
Website www.mj-net.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 名 女子 738 名 合計 738 名
幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度＋活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は「これからの国際社会に貢献できる人材の育成」を国際交流コース（クラス全員が高校 2 年時に 1 年間の留学を義務づけられているコース）のコース目標とし、ESD を授業内外に取り入れたカリキュラムによって「幅広い視野」と「柔軟なところ」、そして「高みを目指す志」の育成実践を試みた。

具体的には「日本を知る」「自分を知る」「世界を知る」を柱に、①日本文化・歴史に対する知識を深める活動、②留学先の国の文化・歴史に対する知識を深める活動、③様々な国際問題に対する意識を高め発信力を育てる活動を行った。

①日本文化・歴史に対する知識を深める活動

高校1年時においては、日本の文化を幅広く知ることを目的とした「文化比較講座」で、茶道や華道、空手などを実際に体験したり、日本の国技である相撲の博物館や江戸東京博物館に見学に行ったりした。また、長期の休みを利用して行う京都・広島への研修旅行では、日本文化に対する学びをさらに深め、広島では戦争による唯一の被爆国である日本の国民として、留学した際に世界で何を発信してくるべきなのかを考え、のちに研修旅行の成果としてプレゼンテーションを行った。そのほかの平和学習として東京大空襲に関する講話を聴いたり、靖国神社にいったりもした。

②留学先の国の文化・歴史に対する知識を深める活動

国際交流コースでは高校2年時にクラス全員が世界各国に1年間の留学をし、見聞を広めて帰国してくるが、その前段階として自分が留学する国に関して興味ある部分をレポートとしてまとめ、文化比較講座内で発表した。また、現在受け入れをしている4か国からの留学生からそれぞれの国の言葉を学ぶ機会を持つだけでなく、彼らの国についてプレゼンテーションをしてもらう機会を設け、より多くの国々について学びを深める機会をもった。

③様々な国際問題に対する意識を高め発信力を育てる活動

高校1年時にはユネスコ国際ユース作文コンテストにクラス全員応募し、テーマ「自然から学ぶ」ことに対しての自分の意見をまとめた。

留学帰国後の英語の授業では、国境なき医師団の活動に関し学んだ際に、今世界が抱えている様々な国際問題の中で特に自分たちが興味あるテーマを選び、それについて深く調べるとともに、自分たちの身近なところからできる解決策の提言を盛り込んだグループプレゼンテーションを英語で行った。



①の活動（華道）



①の活動（日舞）



②の活動（広島研修旅行）



②の活動（事後学習プレゼン）



②の活動（スピーチ）



②の活動（留学生による授業）



③の活動（留学生との授業）



③の活動（グループプレゼン）

（2）活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(教育)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他（自由記述 時間外活動の時間を使用 ）	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

グループにより、あるいは生徒個人によりさまざまであるためよくわからない。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校には留学を義務付けているコースがあるため、生徒たちは留学することを近い目標ととらえているが、留学では何を吸収し、何を発信してくるのか、そして留学から帰国した際にどういう人材として社会に出たいのか、どのような世界貢献ができるのか、考えさせるための手段としてESDをとらえている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

留学に向けた準備段階として様々な活動を行うための文化比較講座、発信力を培うための発信力養成講座、英語実践力養成講座など工夫されたカリキュラムが学校として整えられている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

生徒個人個人の成果はたいへんあったと思うが、ユネスコスクールとしての活動の評価という観点からするとよくわからない。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

様々な形でクラスや、学年などで発表を行うことにより、意見のまとめ方、あるいは効果的な話し方、資料の使い方などいろいろと成果があったように思う。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

外務省の方に来ていただき、ODAの活動についてお話を聞く機会を持った。現在「国境なき医師団」で働いている本校の卒業生に話をしてもらう機会を持った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

特に行ってはいない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

生徒一人一人が自分に何ができるかを考えることができ、またそれらをまとめて発表する機会が持てたことはよかった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

どの活動がユネスコでどの活動がユネスコでないかといわれるとよくわかりませんが、とにかくこれからの国際社会に出ていくために必要な「幅広い視野」、「柔軟なところ」を持った生徒の育成という面では今年度行ってきた活動はどれも有益であったと考えます。